

1. 単元名 「日本の諸地域 中国・四国地方」

2. 単元の目標

- (1) 中国・四国地方や馬路村における課題である「過疎化」と、その解決策である「村おこし」について、自らの地域と比較しながら、意欲的に学習することができる。(主体的に学びに向かう態度)
- (2) 馬路村の村おこしの秘訣について、多面的・多角的にまとめることができる。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 本州四国連絡橋建設前後の中国・四国地方における人口変動のグラフから、ストロー現象について読み取ることができる。(知識・技能)

3. 単元について

(1) 教材観

今日、日本を含む世界では、様々な課題が山積している。先進国では、少子高齢化による労働人口の減少や働き方の問題、社会保障の問題などが起きている。一方、発展途上国では、発展と環境保全の両立や、人権保障、安全保障の問題が起きている。また、大牟田市や宮原校区においても、少子高齢化に伴う人口減少の問題や、雇用の確保の問題、観光資源の活用など、多種多様な課題がある。

現在中学校2年生である生徒が大人へと成長する時代は、今以上に多種多様な課題が出てくることも予想される。また、労働人口が減少し、使用可能な資源も減少していく中、生徒たちは新たな価値観を創造したり、合理的な思考を駆使したりしながら、社会を創造する構成員となっていく存在である。併せて、有権者の一人として、国レベルで起きている問題を自分の問題としてとらえ、自分の考えを基に選挙で一票を投じていくこととなる。人口減少によって一票の重みが増していく中、合理的に思考し意思決定を行う思考・判断力はもちろんのこと、基本的な知識や情報を収集するために必要な技能などの能力が求められる時代となっていると考える。

本単元では、上記した変化の最中にある時代の中でも、特に喫緊の課題となりつつある「過疎化」について取り上げる。「過疎化」とは、若年人口の流出と高齢化によって、地域コミュニティの維持が困難となる社会問題である。地域コミュニティの維持については、コンパクトシティ論など、都市中心部への人口の移動と集中により解決可能であるという考えも欧州を中心として存在しているが、日本ではまだ浸透していない。しかし、その地域で長年暮らし、思い入れもあり、どうにかして自らの故郷を存続させたいという人々の思いを考えれば、日本における「過疎化」の問題を、地域コミュニティの維持と両立させながら解決する必要がある。なお、ここにおける解決とは、十分な自主財源の確保である。

このように、全国各地で過疎化の解決に苦慮する中、過疎化の解決に成功した地域が存在する。それが本単元で取り上げる馬路村である。馬路村は、高知県にある村であり、人口は1000人に満たない小さな村である。高齢化率も本市と同じ40%前後となっている。かつて馬路村では、豊富な山林を生かした林業を基幹産業とした地域であった。しかし、時代とともに林業も限界を迎え、若年人口の流出と高齢化により地域コミュニティの維持という問題に直面することとなった。しかし、当時高知県内では一般的であった「ゆず」に着目し、かつ供給過多となりつつあった高知県内ではなく、県外を中心とした「田舎感」「日本の故郷感」を刺激する独自のマーケティングを、村全体が村への愛情で一致団結して展開し、数十年継続した結果、現在では年商31億円を超えるまでとなった。

上記のような馬路村の取り組みは「村おこし」として知られるが、各地で村おこしに苦慮する地域も多い中、他地域との差別化という村おこしの基本を行いながらも、マーケティングにおける馬路村を売り込む工

夫など特殊性が見られる。この「馬路村」の取り組みから、本市でも課題となっている「過疎化」や「村おこし」について学びを深めたい。

(2) 生徒観

生徒は、小学校4年生の段階で、県内の産業の特色や地域について、そこでの人々の営みや産業について学習している。また、小学校5年生では、日本の産業の特色についても学習している。しかし、日本の地理について、すべての都道府県を覚えている生徒は全体の2割ほどであり、基本的な地理的事象の定着については課題がある。

大牟田市については、それぞれの小学校における学習で、探求的な学習を行ってきており、本市の状況や文化遺産などについては、ほとんどの生徒が認識できている。しかし、大牟田市の高齢化率や人口減少などの課題については、正確に認識できておらず、それをどのように解決していけばよいのかも認識できていない。また、生徒の問題発見力について、以下のようなアンケート調査を行った。

	設 問	あてはまる	あてはまらない
1	問題に対して、よりよい解決策を考えることができる。	56%	43%
2	積極的・発展的に、よりよい解決策を考えることができる。	50%	50%
3	物事を良いほうに考え、粘り強く、解決に向かうことができる。	53%	46%

問題発見については、おおむね得意としている生徒が多いことが分かる。しかし、苦手としている生徒も半数程度いる。特に、問題発見については、比較的得意であると認識している生徒が多数を占める一方で、解決策を考えたり、解決したりする活動に対して苦手意識を持っている生徒が多いことが分かる。

(3) 指導観

本単元では、学習指導要領にも述べられている通り、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方について学習する。特に、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することが目標である。

それらを踏まえ、本単元では、まず馬路村の「人口1000人」でありながら、村おこしに成功し、年商31億円を達成しているという思考のズレから生徒の問題意識を高める。その上で、中国・四国地方において学習する「過疎化」がどのようにして起きるのかを、本州四国連絡橋の建設とストロー減少から、人口の移動の特徴を捉えさせる。「過疎化」の原因について学習した後、その解決策である「村おこし」について馬路村の村おこしについて学習していく。馬路村の村おこしの手法については、村おこしの中心人物のインタビュー動画などから生徒に読み取らせたい。加えて、馬路村の村おこしにおいて最も重要な、「田舎感」「日本の故郷感」を県外の人々に抱かせた、村全体が村への愛情で一致団結して行ったマーケティング戦略について、実際に馬路村の商品である「ごっくん馬路村」の試飲と、ごっくん馬路村のパンフレットから読み取らせる。

以上のような学習過程を通して、生徒に過疎化と解決策である村おこし成功の本質的な部分について捉える力を身に付けさせるとともに、問題解決的能力も身につけさせたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学びに向かう態度
本州四国連絡橋建設前後の中国・四国地方における人口変動のグラフから、ストロー現象について読み取ることができている。	馬路村の村おこしの秘訣について、自分なりにまとめることができている。	中国・四国地方や馬路村における課題である「過疎化」と、その解決策である「村おこし」について、自らの地域と比較しながら、意欲的に学習することができている。

5. ESD との関連

(1) 本学習で働かせる ESD の視点

- ・有限性…自治体の持つ資源には限りがあったり、偏りがあったりする。一見価値のないようなものでも、新たな価値を付与することで自治体の村おこしに寄与することができる。馬路村は元来林業で栄えていたが、林業だけでは村の財源を確保することにつながらず、過疎化の進行を促してしまった。しかし、村で当たり前であったゆずを県外への PR に有効活用することで、財源確保に繋げることができている。また、価値の内容に見える「田舎感」や「素朴感」を売りにすることもしている。自治体ごとに存在する有限性の中で、価値を見直し、新たな価値を見出すことが大切であるということ。
- ・相互性と責任性…村の人々は村への愛情と誇りを持っている。村全体で協力し、数十年という長い時間かけながら、村おこしを成功させた。村として人々が一致団結し、必ずやり遂げるという強い熱意を村への愛情で支えることが重要であるということ。

(2) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカルシンキング）…馬路村の村おこしの成功の秘訣は何か、その本質は何かを捉える。
- ・多面的・多角的に考える力…馬路村は一面的には過疎の進行した村だが、田舎という面やゆずという特産品から見ると価値のある資源がある村である。
- ・進んで参加する態度…馬路村の人々のように、大牟田市の町おこしに関わろうという態度。

(3) 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・世代間の公正

自治体が持続可能になることは、そこに住み続ける後世の世代に故郷を残すことにつながる。また、目下の過疎化対策ではなく、持続可能な過疎化対策を行うよう考えることも重要である。

(4) 達成が期待される SDGs

- 1 1 持続可能な都市の形成

6. 展開の概要（全 4 時間）

時	学 習 活 動 ・ 内 容	生徒の問いと思考	支 援 の 内 容 ・ 手 立 て ・ ね	評価の観点
1	<p>中国・四国地方の特色①</p> <p>めあて：馬路村のある中国・四国地方は、 ろう。</p> <p>1 馬路村の特徴と村おこしが成功していることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬路村の人口 ・馬路村の面積 ・馬路村の高齢化率 ・年商 31 億円 <p>2 中国・四国地方の気候・経済・文化的な概要について学習する。</p>	<p>馬路村のある中国・四国地方には、どのような特色があるのだろうか。</p> <p>中国・四国地方の概要を理解することができた。</p>	<p>馬路村のある中国・四国地方の基本的な地理について理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●馬路村という村が高知県にあることを伝え、人口千人ほどの村が村おこしに成功していることから、問題意識を持たせる。 ・どうして馬路村は村おこしを成功させることができたのだろうか？ ●ワークシートを用いて、中国・四国地方の気候・経済・文化的な概要について理解させる。 	<p>○中国・四国地方の基本的な地理について理解することができる。 (知識・理解)</p>

2	<p>中国・四国地方の特色②</p> <p>めあて：中国・四国地方には、どのような課題があるのだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グラフから、本州四国連絡橋の設置により夜間人口が減少していることを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・本州四国連絡橋 2 グラフから、四国地方から若年人口の流出が起きていることを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストロー現象 ・若年人口の流出 3 四国地方の地図から、四国地方の全土で過疎化が発生していることを読み取る。 4 まとめ、振り返りを記入する。 	<p>馬路村を含む中国・四国地方には、どのような課題があるのだろうか。</p> <p>中国・四国地方は、過疎化という課題があることが分かった。</p>	<p>中国・四国地方における過疎化について理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本州四国連絡橋の設置により、中国・四国地方においてストロー現象が発生したことを読み取らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・人々は都市部へ移っていくということが分かった。 ●グラフから、中国・四国地方において少子高齢化や若者の人口流出が発生していることを読み取らせる。 	<p>○グラフから、本州四国連絡橋の設置により、四国地方から若者を中心に人口が流出していることを読み取ることができる。(技能)</p>
3	<p>中国・四国地方の特色③</p> <p>めあて：中国・四国地方は課題をどのように解決するのだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グラフから、大牟田市の高齢化率が高いことや、宮原校区の高齢化率が高いことを読み取り、馬路村と状況が似ていることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・大牟田市の高齢化率（40%） 2 高知県馬路村のゆずを用いた村おこしについて知る。 3 まとめ、振り返りを記入する。 	<p>過疎化は、どのようにして解決するのだろうか。</p> <p>地域の特色を生かした村おこしで、過疎化を解決できることが分かった。</p>	<p>馬路村では過疎化をどのように解決したのか理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宮原校区の現状について、大牟田市の統計から高齢化率が高いことを読み取らせる。 ●高知県馬路村の村おこしから、地域の特色である、ゆずを用いた村おこしがあることを理解させる。 ●馬路村の村おこしの中心人物のインタビューから、どのように村の魅力をもPRしていったのかを読み取らせる。 	<p>○高知県馬路村の村おこしについて読み取ることができる。(技能)</p>
4 (本時)	<p>中国・四国地方の特色④</p> <p>めあて：馬路村はどのようにして村おこしを成功させたのだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 馬路村の村おこしの中心人物のインタビューを、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・県外中心の販路拡大 2 「ごっくん馬路村」を試飲する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ごっくん馬路村の素朴な味 3 馬路村のPRビデオやインタビューの動画を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ・村の人々の愛情 ・村の人々の熱意 4 馬路村が村おこしを成功させた秘訣を自分なりにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・村おこしの本質 	<p>馬路村の村おこしは、どのようにして成功させたのだろうか。</p> <p>村への愛情や田舎をPRすることで、成功したということが分かった。</p>	<p>馬路村における村おこしの本質を捉えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●村おこしが最初はいまうまくいかず、県外への販路の確保に何10年も努力を続けたことを読み取らせる。 ●「ごっくん馬路村」を試飲するとともに、馬路村のパンフレットを読み、馬路村のPR動画を視聴することで、あえて素朴な味で表現し、馬路村の田舎という一見不利な要素を強みとして売り出したことを理解させる。(本質をとらえる段階) 	<p>○馬路村の村おこしの秘訣について、自分なりにまとめることができる。(思考・判断・表現)</p>